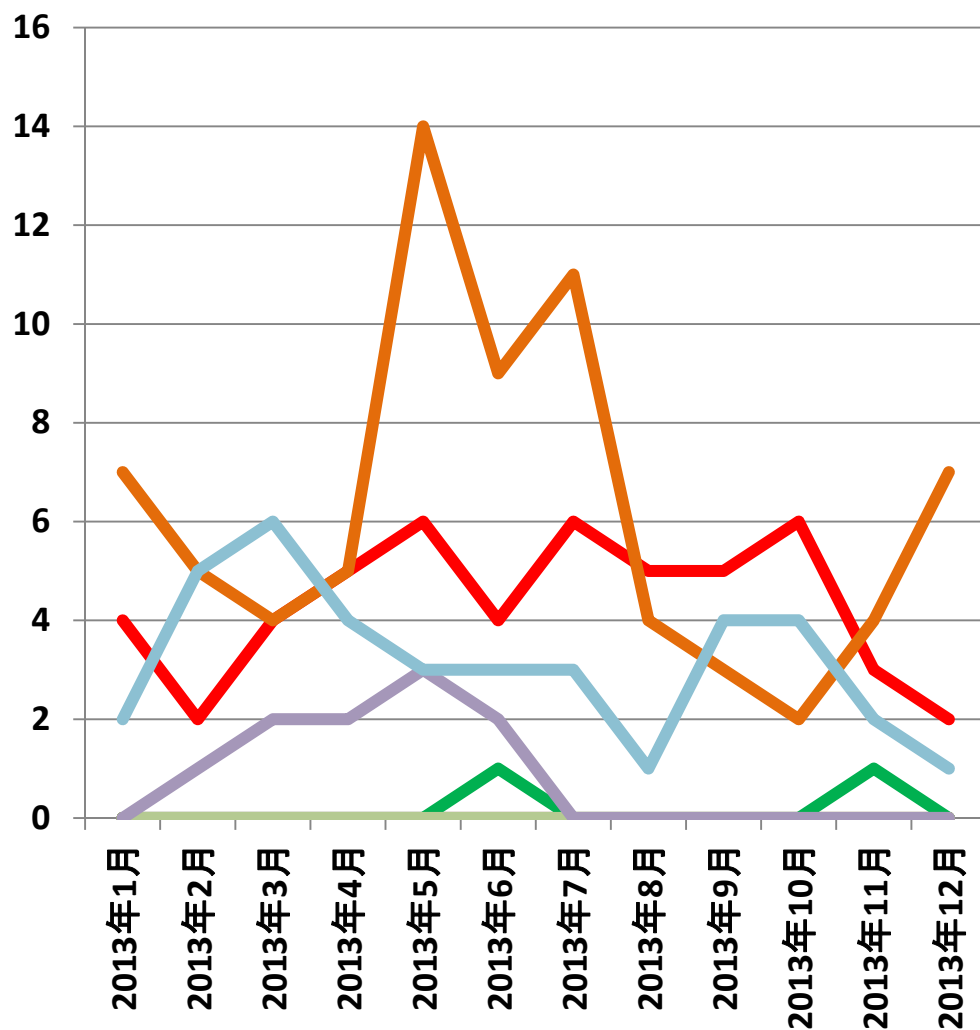


2013年 天使病院における主要耐性菌検出度数の月別推移と1年間の分離率

2013年における天使病院の主要耐性菌の検出度数の月別推移と年間の分離率をグラフにしました。MRSAの分離率が低い一方、ペニシリン耐性肺炎球菌の分離率が高いことがわかります。前者は当院の感染対策が比較的良好なこと、抗菌薬の適正使用が奏功していることが考えられます。後者は、当院が小児科耳鼻科患者の占める率が比較的高く、これらの診療科で特に春から夏にかけて気管支炎、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎などの急性気道感染症の診療頻度が高いことによるものと思われます。



JANISの還元情報をもとに掲載.
 同月の同一患者の複数検出例は1件として扱い,
 月毎に合算し集計した. JANISホームページを参考
<http://www.nih-janis.jp/report/kensa.html>

	当院	JANIS 全国集計
MRSA	2.88	8.06
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	0.00	0.00
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	0.00	0.02
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	4.40	0.89
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	0.00	0.14
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	0.00	0.01
カルバペネム耐性緑膿菌	0.10	1.09
カルバペネム耐性セラチア	0.00	0.01
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	0.00	0.24
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	0.62	1.30
フルオロキノロン耐性大腸菌	2.10	2.87
黄色ブドウ球菌に占めるMRSAの割合: 24.3%		